

序

循環器領域において虚血性心疾患の占める割合は増加しています。虚血性心疾患は、冠動脈疾患とも呼ばれます。冠動脈を正確に評価することは診断に直結するため、冠動脈造影法（CAG）は、冠動脈疾患の標準的な診断法でありゴールデンスタンダードとされます。しかし、その読影は容易ではありません。初期研修医を含む循環器初学者や新たに心カテ室勤務となったコメディカルスタッフにも読影に悩むものは多いと推察します。何より、この著者である自分自身が研修医時代に全く読影できず悩んでいたことを覚えています。冠動脈造影検査は診断だけでなくPCIという治療法と表裏一体の関係にあり、将来PCI施行医を目指す多くの若手医師は、その基本である心臓カテーテル法や冠動脈造影法を修得したいと希望します。しかし、その技術を身につける前提として、冠動脈造影の所見を正しく読影する力を確実に身につけることが重要となります。つまり、**冠動脈造影の所見を正しく読影する能力のない者は、PCIを施行する資格がない**と言っても過言ではありません。しかし、冠動脈造影所見の読影法についての初学者向けの、理解しやすく実践的な書籍はこれまでませんでした。

そこで、冠動脈造影画像を正しく読影できるようになりたいと願う読者のために本書を企画しました。画像診断法が進化した現在では、冠動脈造影と並ぶほどに冠動脈CT検査法も普及しています。本書では、このCT画像と対比しながら読影する方法について詳しく説明しています。冠動脈造影所見とCT画像を併覧することによって、冠動脈造影所見が三次元化して飛び出すようにイメージすることができるようになります。この立体視する能力はPCI施行医としてのレベルを高めることにつながります。本書では、冠動脈造影の読影法修得を促進するために、すべての造影写真に詳細なシェーマを添えました。またWebと協調することにより重要な画像は動画を閲覧できるように工夫しました。

本書は、共著者である放射線技師の林秀隆氏の尽力によって上梓することが可能となりました。彼は若手への教育に熱心で本書の企画から加わり、読者にとって必要な画像データを収集し示してくれました。さらに、本書の企画から発刊までを応援してくれた羊土社編集部の鈴木美奈子女史・山村康高氏に感謝します。

本書によって冠動脈造影を正しく読影することのできる医師が増え、これが一人でも多くの患者を救うことにつながることを希望しています。

2016年2月

天理よろづ相談所病院 循環器内科部長
中川義久